



特定非営利活動法人 五環生活 第17期(2022年12月度)通常総会

日時:2023年3月2日(木)18:30~20:00

場所:彦根市民交流センター(彦根市里根町163-1)

1. 代表理事あいさつ

2. 審議

▼ 議案

第1号議案 第17期(2022年1月~2022年12月)事業報告

第2号議案 第17期(2022年1月~2022年12月)会計決算報告

第3号議案 第18期(2023年1月~2023年12月)事業計画

第4号議案 第18期(2023年1月~2023年12月)会計予算

3. 役員あいさつ



第1号議案

第17期(2022年12月度)事業報告
2022年1月1日から2022年12月31日まで

特定非営利活動法人 五環生活

1. 事業の成果

概要

第17期(2022年12月度)も、依然「コロナ禍」3年目としての活動・営業となった。しかしながら、公に大きな自粛要請が発令されるには至らなかったこと、感染症対策を講じながらイベント・行事を復活・実施していくという風潮となりつつあったこと、そして、サイクリングは屋外活動であることより、レンタサイクル事業に対しての影響は過去2年間と比べるとかなり少なくなり、コロナ前水準に近い活動実績を取り戻すことが出来た。

気候変動の影響で年々暑くなる夏季においては、熱中症等の恐れから屋外活動が警戒されサイクリングに適さない季節として敬遠され利用減になることを恐れたが、若者を中心に活発な利用があり、8月だけでもコロナ前水準に近い貸出数を記録した。このことより、長期休暇中のアクティビティとして劣らない需要があることを実感した。

1) 自転車タクシー運営事業

第12期に事業休止とした。

2) レンタサイクル運営事業

2-1 概要

2022年度の「びわこ一周レンタサイクル」の営業は2022年2月24日から12月13日まで行った。当初の営業計画では2月19日から2022年の営業をスタートする予定であったが、滋賀県北部を襲った記録的大雪の影響で遅らせてのスタートとなった。2022年度は、予約状況としてはごく緩やかで直近の見通しも不安になるような実感を持った。体調面と天気によって左右されるためか早期予約はせず直前予約をするユーザーが多い傾向にあり、実際に、発熱した、陽性者になったなどで直前キャンセルされる事象は引き続きあったところに「コロナ禍」故の影響が少ないながらもあった。週末や連休での利用回復はあったものの、平日においては乏しく、4月5月8月10月11月の繁忙期を除く月においては臨時休業日が発生した。コロナ前において平日ユーザーとして大きな割合を占めていた訪日外国人観光客の受け入れ規制が10月初めまで行われていたことも一因となっている。規制緩和されてからは外国人利用も復活し、コロナ前より団体利用で取引のあったドイツのJFToursの利用も2本あった。通常でもサイクリングハイシーズンとして賑わいを見せる秋であるが、タイミングを同じくしてサイクリングイベントも復活したため一時的に人員不足に悩まされるほどであった。

2-2 「びわこ一周レンタサイクル」利用者について

前年度(2021年1月～12月)と比べ利用者数は270人増の1,742名となり、コロナ前水準の約70%にあたる。コロナ禍により2020年度と2021年度の利用者数は低迷を極めコロナ前水準の55～58%であったが、世情が落ち着き始めたと同時に人の流れも再び活発化し、レンタサイクル利用者数にも回復をもたらした。利用者の多い都道府県は、1位東京(16.1%△3.4%)、2位大阪(15.6%▼4.6%)、3位滋賀(12.5%▼3.8%)、4位愛知(10.3%▼2.9%)、同率5位神奈川(5.9%)、兵庫(5.9%▼1.6%)、7位京都(5.4%▼1.2%)で、その他は各5%未満、長崎、福島、香川、鹿児島、秋田、青森、大分、鳥取、島根は0であった。外国人観光客の利用は10月の規制緩和に伴い、わずかながら利用があった。在日外国人、およびインバウンドの



利用は37組(△8組)あった。年齢層別利用は、10代5.5%、20代 34.9%、30代 15.1%、40代 14.9%、50代 11.1%、60代 6.9%、70代1.1%であった。利用形態としては、ひとり利用が38.5%、友人同士のグループ利用が33.4%、家族利用が13.5%、カップルまたは夫婦のみの2人利用が12.8%、仕事の同僚との利用が1.4%という結果になった。利用目的は、琵琶湖一周が73.4%、その他観光が24.4%、試し乗りが1.5%であった。また、利用者のうち92.9%が初めての利用、リピーターは7.1%であった。利用日数は2日間が最も多く57.3%と半数以上を占める。次いで1日利用21.8%、3日以上が18.2%となった。

2-3 自転車物品販売

2021年6月21日を契約日として五環生活と株式会社フカヤとで自動販売機設置契約書を締結し、北近江リゾートにサイクルパーツ自販機を設置した。設置場所がピワイチルートから離れていることから利便性に疑問があったが、契約期間1年間様子を見ることとした。契約延長可否については、「契約期間満了の3ヶ月前までに通知」が契約書に記載されていたため、2022年3月にそれまでの売上の伸び悩みから判断し契約終了を決め、同月21日までに株式会社フカヤに伝えた。撤去日は先方都合で5月31日に決まり、無事に撤去された。契約期間中の総売上は9,860円、販売個数は13個であった。

2-4 旅行会社のサイクリングツアー商品のレンタサイクルとして

5月16日に西遊旅行のサイクリングツアーで12台1日間の利用があった。添乗員2名付きで60～70代の参加者が琵琶湖一周ではなく、当日は安土城や西の湖周辺のサイクリング、前後日程では高島市マキノや長浜から余呉湖を巡るツアーをされ、レンタサイクルも現地に近い所で手配された。

かねてよりインバウンドツアーを手がけているフラワーコミュニケーションの、エモーショナルツアーズ担当者が6月下旬に米原駅サイクルステーションでレンタルし琵琶湖一周サイクリングを実体験された。その後、新幹線と宿泊手配に加えレンタサイクル予約も含めた個人向けパッケージツアーを販売した結果、問い合わせが2-3件あったが実際に利用があったのは10月に1件のみだった。

2018年以来定期利用があったがコロナ禍による国境封鎖の途絶えていたドイツJFToursの大口レンタサイクル利用が再開し、10月8日に14台、11月12日は10台を貸し出し、ドイツ人添乗員のガイドで米原彦根間のサイクリングを楽しまれた。

2-5 個人団体利用や研修旅行としての利用

4月2日に個人企画の1泊2日琵琶湖一周サイクリングのためにレンタサイクル21台の貸出を行った。

8月16日には大阪体育大学の研修プログラムとしての1泊2日琵琶湖一周サイクリングで16台の利用があった。毎年恒例の行事で中学生の自立性と行動力を育む目的で3名の大学生と体育科教員がフォローするという養成プログラムであったが、レンタサイクルの質の良さが今までで一番だったと好評いただいた。

三菱電機労働組合名古屋支部の研修旅行としての1泊2日琵琶湖一周サイクリングのため20台の予約があったが、生憎台風接近による荒天が予想されたため直前キャンセルとなり不催行となった。

10月15日にはYMCAの1泊2日琵琶湖一周サイクリングプログラムとして10台の貸出を行った。こちらも大学生が中学生を引率し、サイクリングとキャンプ体験が行われた。

2-6 レンタサイクル車体破断事故

レンタサイクル事業の運用見直しを余儀なくされる事故が8月12日に発生した。利用車体のフレームが走行中に突然破断したため、事故被害者は擦傷・打撲を負い救急搬送された。幸い、当時の病院の応急処置とその後2週間程度の手当てで回復されたが、事故被害者からの事故原因究明の要求もあり、突然の車体の破断という事象を重く受け止め、当該車体販売店、当該車体メーカーからの情報収集、弁護士、保険会社との相談を経て、医療費・レンタサイクル料・慰謝料を支払い、約1か月後の9月15日に示談成立した。同時進行で当該車体メーカー製の車体及び稼働年数5年を経過した車体を使用不可とし、びわこビクターズビューロー補助金「令和4年度観光サイクル利用促進事業」を利用しながら新車購入を行い、レンタサイクル車体の入れ替えを進め、10月1日には生産物賠償責任保険に加入した。2012年にレンタサイクル事業を始めて10年、米原駅サイクルステーションに拠点を移して6年経ったタイミングで、経年劣化と不特定多数に



よる長距離走行がもたらす金属疲労と酷な使用状況を深刻視させられた事故であり、今後より一層のリスクマネジメントの必要性を突き付けられた。毎度の整備点検に加え、経過年数管理を行い事故の未然防止に最善を尽くす対策を行う。

3) サイクルイベント事業

3-1 概要

いわゆる「ウイズコロナ」で日常を取り戻していこうという風潮が後押しして、前年まで自粛やキャンセルされていたあらゆるイベントが復活し催行された年になった。自転車関連のイベントも、昨年度は参加者・対象者を限定したものやモニターツアーにとどまるものが多かったが、今年度は従来のように広く一般に参加を募り催行するものとして復活した。なかでもH&S(平和堂&サントリーフーズ)の「親子ビワイチ体験」イベントはコロナ禍においても催行を検討し続けられたものであり、2022年は平和堂60周年記念事業の一環としても強く催行を望まれていたが、雨天予報により今回もキャンセルとなった。以下は、イベント主催者から五環生活に依頼があり、イベント車体提供、イベント補助、メカニックサポート、ツアーガイド、イベント内コーナー出展・運営として関わったもの、および自主ツアー事業としてのファンライドである。

3-2 彦根にゃんといいまちラン&サイクルロゲイニング大会

「彦根城を世界遺産に」が大会のサブタイトルになっており、エリアが米原市内の中山道も含む広域になるためサイクル部門も設けたいという事務局と委員会の要望があり、五環生活に委員会オブザーバーと大会当日のサイクル部門の希望者へのレンタサイクルおよびメカニックサポートを依頼された。予算が限られていることと彦根市中心での開催となるため同委員でもある彦根市観光交流課の承諾も得た上でめぐりんこ車体を提供することとなった。3月13日当日、実際にレンタル希望があったのは2組6台、メカトラブルはなく、サイクリストにもすそ野が広げられた伸びしろあるイベントとの印象を受けた。

3-3 そのばkitchen

今回は近江ツーリズムボードからではなく近江トラベルからルートクリエイトとツアー走行ガイドの依頼があった。9月25日、残暑厳しい天候の中、年配層も含む参加者11名を引き連れて彦根駅を出発し、あゆのきむらと彦根麦酒の見学を経て荒神山麓の梨園でのランチ後は愛菜館、あのベンチ経由で彦根城前を通過しながら彦根駅に到着する約20kmのコースをガイド3名で担った。参加者年齢層や経験値をめぐりんこ車体がカバーするのは難しい点や街中の走りにくさなど課題は見受けられたが全体として満足感のある人気の出そうなツアーであった。

3-4 アルプラザ近江八幡ビワイチの日イベント

滋賀県が制定した「ビワイチの日」11月3日に関連イベントを開催して盛り上げたいので自転車体験コーナー出展をしてほしいとアルプラザ近江八幡より依頼があった。屋内の限られたスペースであるため試乗体験は困難なのでローラー付き車体を用意しスポーツバイク体験として出展した。また、ビワイチやビワイチ・プラスに関する30分ほどのステージトークもMCとのトークセッションという形でスムーズに運んだ。

3-5 「特急北びわこ号に乗って 湖北アドベンチャー秋の旅」

日本旅行と長浜観光協会およびびわ湖の素DMOで企画販売された「特急北びわこ号に乗って 湖北アドベンチャー秋の旅」では9つのローカルツアープランがあり、そのひとつ「(サイクリング)ちよっとビワイチ&いぶき薬草湯入浴とイルミネーション鑑賞」でレンタサイクルとガイドツアーの依頼があった。応募は1名で、11月12日に催行した。

3-6 愛荘町スイーツライド2022

2021年度同様、愛荘町が町内でのサイクルロゲイニングを用いたスイーツ巡り周遊企画を公募しエフエム滋賀が受託、実行委員会制で実施された。今回は天気にも恵まれず、当初11月20日開催予定であったが雨



天予報の為23日に延期決行された。延期日も雨天であったが実行委員会の協議により参加条件が大幅に変更され移動手段を問われず参加可能となった。今回はメカニックサポートだけにとどまらず、昨年度の経験からのアドバイスやネットワークを活用した出演者情報提供やそのフォローという面でも貢献した。

3-7 ファンライド

年4回程度の開催予定であったが、11月はあらゆるイベントで予定が立たなくなり企画しなかったため、4月10日、6月19日、9月11日の3回のみで開催になった。4月と6月は近隣のリピーター率が高くサークルイベントのような形になったが、9月に関してはノープランだった終日レンタサイクル利用者親子と県内の女子サイクリストが飛び入り参加したことで顔ぶれに多様性が出た。また、飛び入り参加した女子サイクリストがSNS上で拡散力がありファンライドについても投稿されたためロコミ広報につながった。

4) コンサルタント事業

4-1 滋賀プラス・サイクル推進協議会

「サイクリング体験・安全教室」を受託し実施した。親子連れがスポーツサイクルを体験する機会を創出するイベントとして「こどもビワイチ体験会」を5月22日と10月22日の2回、滋賀県希望が丘文化公園で実施した。五環生活所有のクロスバイク・ロードバイク・キッズバイクとタンデム自転車の他、メーカーからの協力を得て、グラベルロード、E-bike、小径車、マウンテンバイク、サイクルトレーラー等も用意し多種多様なスポーツバイクを取り揃えて参加者や来場者の関心を寄せた。両日とも良好な天候のもと、それぞれ295名と167名の参加者があった。

自転車利用促進啓発事業については補助を受けて、7月31日に「おおつエコフェスタ2022」、10月15日に竜王町ドラゴンハットでの「滋賀県交通安全フェア」に出展し自転車発電体験イベントを行った。各イベントにおいて自転車発電体験コーナーは人気で、それぞれ100名以上の参加者があった。

このほか、「ビワイチの日」および「ビワイチ週間」に向けての取り組みに関しても、協議会会員として会議出席し意見交換やイベント運営協力の形で参画した。

4-2 彦根市レンタサイクルめぐりんこ

前年と同様、彦根駅前サイクルステーションと河瀬駅前サイクルステーションは年末年始休業を除いて通年営業、京橋口サイクルステーションは火曜水曜定休と12月から2月まで3カ月間冬季休業を行って営業した。利用者数は月単位では前年同月の約2倍から3倍、年間では約2倍となり、大盛況であった。この好調な運用の一方で、彦根市の財政が厳しいことから「彦根市レンタサイクル管理運営委託業務」について予算削減の必要があるとの通知が10月上旬にあった。市の要望に応じ運営費用削減案を提出したところ、運用形態を変えて継続の方向を検討するとのことであった。

4-3 湖東周遊促進事業(サイクル周遊促進事業)

びわこ湖東路観光協議会の令和4年度「着地型観光推進事業」のひとつ「湖東周遊促進事業(サイクル周遊促進事業)」を受託し、滋賀県を代表するコンテンツの一つである「飛び出し坊や」を活用してレンタサイクルの利用促進につなげる企画を昨年度12月から今年度3月末まで実施した。1市4町それぞれの地域性を現したオリジナルの飛び出し坊やを製作・設置し、それぞれの飛び出し坊やをさらに特徴づける「アイテム」も製作した。「アイテム」は、各市町のレンタサイクル「めぐりんこ」をレンタルする利用者の方に配布する特典とした。4か月間で配布したアイテム数は約350組であり、350名の利用者にキャンペーンを知ってもらうことが出来たが、実際にアイテムを使用して撮影しキャンペーンオリジナルハッシュタグ「#tobidashimeguri」をつけて投稿されたのは4件確認出来たのみだった。

4-4 愛荘町サイクルツアー

「令和4年度愛荘町ビワイチ・プラスサイクリングツアー」の業務委託を受け、愛荘町民を対象とした自転車活用の促進と自転車を活かした健康づくりの推進のためのサイクリングツアーを2回企画実施した。町内の



観光資源を活用することが求められたため、1回目は「かまど炊き体験」を、2回目は「機織り体験」をツアー中に組み入れた。1回目は11月6日に開催し、好天の中町民10名が体験とサイクリングを楽しまれた。2回目は11月13日に開催し10名が参加したが、途中から雨天となったため行程を短縮した。実際の参加者の満足度は高かったが、広報してからの応募状況が芳しくなかった。地元住民が地元を探索するサイクリングイベントに興味を抱くような仕掛けづくりや魅力の伝え方は難しい課題として残った。

5) 五環カフェ(情報交流の場づくり)・五環ワークショップの企画運営事業

JT(日本たばこ産業株式会社)のRethink Projectの助成金を使って米原駅サイクルステーションに「レイクグラスミュージアム MLGs×ビワイチ×米原駅サイクルステーションwith Rethink PROJECT」を設置運用した。レイクグラスを探し集めるために、琵琶湖一周などサイクリング中に浜辺に降りて実際に琵琶湖に触れる機会になると同時に、自然と湖岸ごみ問題への意識の芽生えにもつながる。滋賀県のMLGs達成目標における「4.水辺も湖底も美しく」、「11.びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう」の達成を目指すユニークな切り口のプロジェクトとして取り上げられ話題になった。設置された什器が駅自由通路内で明るく目立ち魅力的なデザインであるため通行人の多くが引き寄せられるように立ち寄りいき鑑賞されたことから、米原駅サイクルステーション利用者に加え不特定多数の駅利用者に広く認知が行き渡ったと考えられる。設置期間は2022年3月10日から2023年3月末までであり、その後の運用については検討中である。

大津市の視覚障害者センターより依頼があり、11月18日に大津港前の広場でセンター利用者を対象としたタンデム自転車体験会を行った。彦根市の県立視覚障害者センター所有のタンデム2台の運搬と講師(パイロット役)を引き受け実施した。

6) 五環生活に関する商品の開発・普及啓発事業

彦根商工会議所の「販売促進・販路開拓支援事業助成金」を使って、びわこ一周レンタサイクルのホームページの改修を行った。スライドするトップバナーの画像とキャッチフレーズを一新し、琵琶湖一周サイクリングと米原駅サイクルステーションのレンタサイクルの魅力をわかりやすく伝えた。

日常的な広報活動はSNS(Facebook、Instagram)を更新することで行った。Instagramではオンライン上でしか交流のなかったサイクリストフォロワーが実際に米原駅サイクルステーションを訪れてくれ面識を持つことが増えた。彼らが米原駅サイクルステーションをメンションして投稿拡散してくれることも多く、口コミ広報が波及した。

7) その他事業・総務部

前年度(第16期)総会において役員改正について承認可決され、新体制での運営となった。全体としてコンパクトになったが、役員・事務局・スタッフ間のコミュニケーションはより密にスムーズになり、また各スタッフもより一層任務に責任を持って取り組むことが出来た。

2020年4月から受給してきた厚生労働省の雇用調整助成金の申請については、2022年6月分までをもって終了した。自主事業の売上が回復を見せ、従業員に計画的休業を要請することもなくなってきたためである。顧客の流れは戻りつつある一方で、世情不安と物価高の影響が懸念点であり、レンタサイクル運営事業においては料金改定を行い対策を講じる計画である。



2. 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
自転車タクシー運営事業	事業休止	休止		0名	通常運行: 0名	0
レンタサイクル運営事業	・びわこ一周レンタサイクル 2/24～12/13の約10カ月間営業。 臨時休業16日間。 ・自転車物品販売(サイクルパーツ 自販機設置)5/31終了 ・新車購入(令和4年度観光サイク ル利用促進事業)	通年	県内	5名	びわこ一周レンタサイクル 利用: 1,742台 ・サイクルパーツ自販機販 売数: 7個(1月～5月) ・新車導入(9月～12月) 6台/利用者112名	17,735
サイクルイベント運営事業	・彦根にゃんといいまちラン&サイク ルロゲイニング大会 ・そのばkitchen ・AP近江八幡ピワイチの日イベント ・「愛荘町スイーツライド2022」11/23 (メカニック) ・ファンライド3回	通年	県内	5名	・ラン&ロゲイニング大会 レンタサイクル6台 ・そのばkitchen 参加者11名 ・AP近江八幡イベント 来場者 200名 ・「愛荘町スイーツライド20 22」参加者: 40名 ・ファンライド 参加者6名(4/10)、6名(6/1 9)、8名(9/11)	138
コンサルタント事業	・滋賀プラス・サイクル推進協議会ス ポーツサイクル体験イベント5/22・1 0/22(イベント企画運営) ・自転車利用促進啓発事業(自転 車発電体験会出展)7/31・10/15 ・彦根市レンタサイクルめぐりんこR3 年度[2022/1/1～3/31]R4年度[20 22/4/1～12/31](レンタサイクル管 理運営) ・愛荘町サイクルツアー2回11/6・11 /13	通年	県内	5名	・スポーツサイクル体験イ ベント参加者: 5/22 295名 10/22 167名 ・自転車発電体験会 7/31 100名 10/15 100名 ・彦根市レンタサイクル利 用(2022/1/1～12/31): 駅前2,738名 京橋404名 合計3,142名 ・愛荘町サイクルツアー参 加者: 11/6 10名 11/13 10名	9,136
五環カフェ・五環ワークショップ企画運営事業	・レイクグラスミュージアム[2022/3/1 0～2023/3/31] タンデム試乗体験会11/18	通年	県内	4名	・レイクグラスミュージアム グラス交換:10名 ・タンデム試乗体験会 参加者:13名	100
五環生活に関する商品の開発・普及啓発事業	・HP改修 ・SNS発信更新			1名		100
その他事業・総務部	・新体制運営 ・雇用調整助成金活用	通年	県内	2名	休業手当受給者: 4名	976

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 令和4年 1月 1日 至 令和4年12月31日

《経常収支の部》

[経常収支の部]

【経常収入】

事業収入 (課税対象)	17,189,817
委託金収入	10,471,142
正会員会費収入	45,000
休業手当負担金収入	1,536,165
補助金収入	1,204,092
雑収入	76,085
受取利息収入	66

経常収入 計

30,522,367

【事業費】

期首棚卸高	44,445
期首商品・製品棚卸高 計	44,445
外注費	3,838,678
諸謝金 (事業)	8,272,323
通信費 (事業)	373,446
荷造運賃 (事業)	122,067
旅費交通費 (事業)	1,192,025
広告宣伝費 (事業)	411,702
備品消耗品費 (事業)	2,591,911
印刷経費 (事業)	55,151
修繕費 (事業)	204,069
車両維持費 (事業)	140,855
保険料 (事業)	565,492
租税公課 (事業)	879,210
貸借料 (事業)	126,900
支払手数料 (事業)	27,500
給料手当	6,515,890
法定福利費	1,854,294
雑費 (事業)	1,015,167

当期事業費 計

28,186,680

合計

28,231,125

期末棚卸高

△ 223,845

期末商品・製品棚卸高 計

△ 223,845

事業費 計

28,007,280

【管理費】

給料手当	1,031,400
通信費	5,568
水道光熱費	27,398
修繕費	92,730
地代家賃	544,270
租税公課	72,200
諸会費	27,000
支払手数料	2,640

管理費 計

1,803,206

経常収支差額

711,881

当期正味財産増加額

711,881

前期繰越正味財産額

3,108,790

当期正味財産合計

3,820,671

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

【税込】(単位:円)
令和4年12月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	3,916,857
現 金	1,064,389	前 受 金	2,631,617
ゆうちょ口座	48,618	未払法人税等	781,200
普通預金りそな	89,796	納税充当金	157,926
普通 預金(彦根支店)	8,145,715	流動負債 計	7,487,600
現金・預金 計	9,348,518	負債の部合計	7,487,600
(売上債権)		正 味 財 産 の 部	
未 収 金	1,720,103	【正味財産】	
売上債権 計	1,720,103	正味 財産	3,820,671
(棚卸資産)		(うち当期正味財産増加額)	711,881
棚卸 資産	223,845	正味財産 計	3,820,671
棚卸資産 計	223,845	正味財産の部合計	3,820,671
(その他流動資産)			
前払 費用	15,805		
その他流動資産 計	15,805		
流動資産合計	11,308,271		
資産の部合計	11,308,271	負債・正味財産の部合計	11,308,271

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和4年12月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金	1,064,389
ゆうちょ口座	48,618
普通預金りそな	89,796
普通預金(彦根支店)	8,145,715
現金・預金計	9,348,518

(売上債権)

未収金	1,720,103
売上債権計	1,720,103

(棚卸資産)

棚卸資産	223,845
棚卸資産計	223,845

(その他流動資産)

前払費用	15,805
その他流動資産計	15,805

流動資産合計

11,308,271

資産の部 合計

11,308,271

《負債の部》

【流動負債】

未払金	3,916,857
前受金	2,631,617
未払法人税等	781,200
納税充当金	157,926
スタッフ源泉所得税	(157,926)

流動負債計

7,487,600

負債の部 合計

7,487,600

正味財産

3,820,671